

## 林 重雄<sup>1</sup>・小寺仁美<sup>2</sup>：石川県へのロシア製アルミ浮きの漂着

Shigeo HAYASHI<sup>1</sup> and Hitomi KODERA<sup>2</sup> : Stranding record of the Russian bouy made of alminium, on the beach of Ishikawa Prefecture, Japan

網漁に用いられる浮きの素材は、以前はコルク、桐、など木材が主であったが、それに代わって、ガラス球、鉄球、軽合金球、ゴム球となり、さらにプラスチック製品へと変わった(石井 1999)。鉄や軽合金といった金属製の浮きは旧ソ連邦で作られたものが知られており(Webber 1978; Wood 1975)、北海道では稀にロシア製のアルミ浮きや鉄浮きが見られる(鈴木 2006)。今回、石川県能美市の海岸で、アルミ浮きを確認したので報告する。

石川県能美市道林町の海岸一带は、金沢市の南西20kmほどに位置し、日本海に面している。またこの海岸は白山市の手取川と小松市の梯川に挟まれた砂礫の卓越する海岸で、直線的な海岸線にはビーチカスプが発達している。2016年1月11日、筆者のうち小寺は漂着物調査中に、能美市の大浜海岸で、礫浜上に漂着したアルミ浮きを確認した。これは高潮線よりやや下で木片や漂着ゴミとともに打ち上げられていた(図1)。

浮きはアルミニウムを素材としたほぼ球形のもので、浮子綱を結わえる耳部分を含めた長径38.5cm、短径37cm、重量は3.0kgであった(図2)。ロシア製のアルミ浮きは直径が21cmほどで重量が2kgほどのものが多く、大型は少ない(川崎 2004)。また与那国島に漂着したアルミ浮きも直径38cmほどで、継ぎ目を叩きながら作ったようにでこぼこしており、把手状のものが上部左右にあり(久野 2003)、同様の浮きである可能性が高い。

今回確認できた大型アルミ浮きは1個体のみなので、漂着が認められた記録にとどめ、詳細は今後の比較サンプル漂着の機会にゆずりたい。

### 引用文献

- 久野幸子. 2003. ウキウキ事典, 45pp. ウキウキ研究会, 愛知.  
石井 忠. 1999. 新編漂着物事典, 380pp. 海鳥社, 福岡.  
川崎庸次. 2004. 下北半島の浮子. プカプカ通信28:1-4.  
鈴木明彦. 2006. 北海道の漂着物ービーチコーミングガイドー, 130pp. 北海道教育大学海岸生物研究会, 岩見沢.  
Webber Bert 1978. Beachcombing and Camping along the Northwest Coast,190pp. Ye Galleon Press, Washington.  
Wood Amos L. 1975. Beachcombing the Pacific,225pp. Regnery, Chicago.

(Received Mar. 1, 2016; accepted Apr. 18, 2016)

<sup>1</sup>〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町3-155

<sup>1</sup> 3-155 Toriimatsu-cho, Kasugai City, Aichi 486-0844 Japan

<sup>2</sup> 〒910-0017 福井県福井市文京3-26-2

<sup>2</sup> 3-26-2 Bunkyo, Fukui City, Fukui 910-0017 Japan



図1 能美市に打ち上げられたアルミ浮き



図2 直径21cmのアルミ浮き(右)との比較